



## UNAIDS プレス声明

2030 年までに公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結を目指す政治宣言に強い支持が示され、HIV とエイズに関する国連ハイレベル会合が閉幕

2026 年 6 月 23 日 ニューヨーク/ジュネーブ 国際協力に対する圧力と障害が強まる中で、HIV とエイズに関する国連総会ハイレベル会合が本日、加盟国の圧倒的多数の支持により、HIV とエイズに関する新たな「政治宣言」を採択して閉幕した。新宣言は、2030 年までに公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結を達成するという世界的な決意を再確認し、新たに具体的かつ重要な目標を掲げた。

この成果は、国連全加盟国による数週間にわたる交渉と、コミュニティや市民社会、パートナーとの対話を経て導き出されたものであり、国際的な資金提供の減少、および多国間主義の縮小傾向が強まる中で、各国が引き続き、HIV 対策の持続と進展の緊急性を認識していることを示す結果となった。

新宣言は世界的な HIV 対策のさらなる成功に向けた今後 5 年間の重要なロードマップであり、HIV 対策資金の減少や人権を軽視する逆風がある中でも、成果の加速に向けて世界を導くものになる。2026 年政治宣言が世界エイズ戦略（2026-2031 年）に盛り込まれた野心的な目標を反映していることに注目してほしい。新宣言はまた、2030 年という節目を経て、エイズパンデミックへの対応を検証するハイレベル会合を 2031 年に開催することも約束している。

パンデミックの変化に合わせ、世界のエイズ対策を進めるための課題を新宣言は示している。HIV 検査・治療・予防の公平な普及、拡大に向けた重要かつ野心的なターゲットの設定と実施、資金不足への対応、人権とジェンダー平等の擁護、HIV 治療薬その他の技術へのアクセス拡大を持続可能にする技術共有や現地生産、そしてエイズ対策におけるコミュニティや市民社会の参画の場の拡大などである。

「政治宣言は明確なメッセージを発信しています。HIV は依然として私たちの時代の極めて重要な保健・開発課題の一つであり、現状に満足している余裕はありません。各国主導で、コミュニティの権限を高め、連帯を維持すれば前進は可能です。この共通認識のもとで新たな政治的決意を胸に、私たちはニューヨークを後にします。南アフリカは、公衆衛生上の脅威としてのエイズ

「終結、および誰一人取り残されないようにすることに引き続き断固として取り組んでいきます」と、南アフリカのアーロン・モツォアレディ保健相は述べた。

スペインのハビエル・パディージャ保健担当国務長官は「多国間協力が試されているこの時期に前向きな成果です。各国は立場の違いや複雑化する政治情勢にもかかわらず、エイズ終結に向けた動きを継続・加速させることへの強い支持が存在することを示しました」と語った。

「極めて困難な世界情勢のもとでも、各国は引き続き力を合わせてエイズパンデミックに立ち向かう姿勢を示しました。今後の課題は、投資の継続とパートナーシップの強化、そして人びとのために具体的な成果を上げることです」と、マラウイのマダリツォ・バロイ保健相は述べた。

HIV とエイズに関するハイレベル会合はアナレーナ・ベアボック国連総会議長が招集し、政治宣言の策定に向けた交渉は、ボツワナのデビッド・マソレ国連大使とジョージアのデビッド・バラゼ国連大使が共同ファシリテーターとなって進められた。

「これほど多くの加盟国が政治宣言を支持したことは、私たちが達成した成果に守るべき価値があり、2030年目標（ゴール）に必要な行動を継続する意思があることの表れです」と UNAIDS のウィニー・ビヤニマ事務局長は語っている。

「政治宣言に寄せられた力強い支持は、これまでに達成した成果を共有し、同時に重要な課題が依然として残されていることを認識する姿勢を反映しています」と、ブラジル保健省のマリアンジェラ・シマオ保健・環境監視担当局長は述べた。

ハイレベル会合には、HIV 陽性者、コミュニティ、市民社会、民間セクター、科学者、そして指導者らが参加し、エイズ対策の進捗状況とそれを妨げるリスク、さらに今後 5 年間の優先事項を検討した。

国内資金の動員は国際的な連帯にとって代わるものではなく、相互に強化し合うものであることを加盟国は指摘し、財政の移行によって国としての持続可能な対応を支援しなければならないと強調した。

参加者は、統合やイノベーションがもたらす機会を強調し、新たな予防と治療への公平なアクセスを確保することの重要性を指摘した。

議論全体を通しコミュニティによるリーダーシップの重要性が強調され、宣言そのものにも反映された。また、サービス提供や説明責任、そして取り残された人たちに手を差しのべるには、コミュニティが不可欠な役割を担っていることも改めて確認された。実施やガバナンスのあり方についても、コミュニティが中心的な役割を担い続ける必要があることが登壇者の演説や宣言の中で強調されている。

「政治の現状を考えれば、今回の宣言は大きな成果です。HIV 対策のあらゆる前進は、当事者コミ

コミュニティが闘い取ったものであり、与えられたものではありません。エイズ終結に向けた決意が依然、強固なことを宣言は示しています。コミュニティは公衆衛生上の脅威としてのエイズが終結するまで働きかけを続けていきます」と GNP+のフローレンス・アナム事務局長は述べた。各代表団は、国連が果たすべき継続的な役割を強調するとともに、多様なステークホルダーが関与する国連合同エイズ計画（UNAIDS）独自の調整機能強化に対する重要性を訴えた。

「各国政府は、コミュニティの支持を受けつつ結束すること、多国間主義は死なず、健全に機能していることを確認しました。大多数の国が、公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結を 2030 年までに達成するという目標（ゴール）に向け、世界が対応を加速させるための野心的なターゲットを掲げた力強い宣言を採択しました。25 年前の約束を守り続けているのです」とウィニー・ビヤニマ事務局長は述べた。

日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団